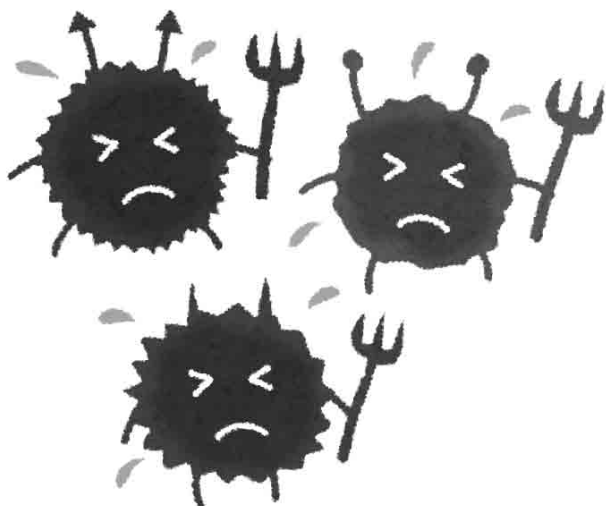


胃がんの主原因「ピロリ菌」の検査助成を

山下 秀則 議員



ピロリ菌をなくして胃がん予防

答 実施を前提に検討する

問 ピロリ菌検査の市助成について、今年3月議会の一般質問を踏まえて、市としてどこまで検討しているのか、また検討の中で、問題点と効果があると思うが市の考えを問う。

市長 胃がんリスク検査を行う上で、一定のメリットがあると考えている。現在、県内では4つの自治体で胃がんリスク検査が行われている状況である。筑後市において今後、

実施自治体状況を見ながら、実施に向けて検討を行いたいと考えている。

胃がんリスク軽減に効果的である

健康づくり課長 実施自治体の課題も見えてきている。胃がんのリスクがある受診者に対し検査後のフォローができていない。また、胃がん検診の受診率が減少した自治体もあると聞いている。

効果としては、胃がんリスク検査は受診者の負担が少なく、ピロリ菌に感染していた場合、除菌することにより胃がん発生のリスクを下げる効果があると認識している。

市長 医師会での具体的な検討も大事なので、いろんな知恵を借りながらどうしたらできるか検討したい。

効果として、胃がんリスク検査は受診者の負担が少なく、ピロリ菌に感染していた場合、除菌することにより胃がん発生のリスクを下げる効果があると認識している。

定住促進計画の進捗状況は

富安 伸志 議員

問 平成28年度の人口を5万人とすることを目標に、24年度より定住促進対策として取り組みが開始されたが人口は25年3月以降横ばい状態である。現時点での進捗状況に対する認識は。

市長 PRが不十分で、十分な結果にはつながっていない。さらに力を入れていきたい。

問 到達のための、具体的な工程はどう考えているのか。

企画財政課長 当面は計

答 PR不足である
さらに力を入れていく

画されている事業の実施による効果検証を行いながら、必要な見直し検討を行っていく。

問 人口増は住宅政策で考えるのが基本と言われる。宅地開発などを誘致するような仕掛けなり、手助けをするような考えはあるのか。

建設経済部長 宅地開発の展開は定住促進計画には入っていない。民間開発に助成をしている自治体もあるが、筑後市でも行うとすれば議会とも意見交換をしながら方針を決めるべきと考える。

問 定住促進においてどの地域を意識して推進するのか。

総務部長 明確にはないが、小郡や久留米南部であるという感じを持つ。



「移住定住フェア in 天神」で活躍するはね丸くん